小学校外国語科

学習評価で大切にしたいこと

目標・指導・評価の一体化
児童に付けたい力を明確にし、その力を育成するための単元構成を考え、指導を行いましょう。児童と「中心となる言語活動」を共有した上で指導を行い、評価することが大切です。

多面的・多角的な評価
学期末等、複数の単元の学習の後、ポスターの作成、発表、やり取りや、グループでの話し合い等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンステストを実施し、評価を行います。

評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域（聞く、読む、話す［やり取り、発表］、書く）であり、領域別に３観点で評価します。「教科目標」「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す「評価の観点及びその趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。 ・読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価します。外国語科では、基本的に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定します。
また、単元で身に付ける資質・能力を児童と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて見取ることも大切です。

「話すこと［やり取り］ウ」第５学年

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合おうとしている。

単元の評価規準例	相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

Point
評価規準は、各領域の「基本的な形」を参考にして作成することができます。左記の［やり取り］では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

３観点を評価する上での留意点

知識・技能
英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているかどうかを評価します。

思考・判断・表現
コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じて、話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりしているかどうかを評価します。

主体的に学習に取り組む態度
自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組み、問題解決の過程を振り返って改善しようとする態度を身に付けているかどうか、自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価を補完
記録に残す評価場面のない授業においても、指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を継続的に確認し、単元や学期末の評価を総括する際の参考にします。

2 何を、どのように、いつ見取るか
単元の中で、３観点５領域で見取る場面を適切に設定します。この単元では「話すこと［やり取り］」における「思・判・表」を中心に見取るというように年間で計画を立てることが重要です。

（例）第５学年「話すこと［やり取り］」の授業 ◇ **単元名** 世界地図を見ながら、お互いの行ってみたい国についてよく知ろう

◇ **単元の評価規準** 「話すこと［やり取り］」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞について理解している。［知識］ 行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。［技能］	①相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。	①相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

◇ **指導と評価の計画**（全８時間）

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
4	・行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞を学ぶ。 ・相手に薦める表現を学ぶ。	主（思）		［主①］（活動の観察、振り返りシート点検） ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしようとしている。
6	・ペアで、お互いにお薦めの国について伝え合うやり取りを繰り返し行う。	知	○	［知・技①］（活動の観察、振り返りシート点検） ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしている。
7	・自分の行きたい国とその理由について説明し、ペアでやり取りをする。	知	○	［知・技①］（活動の観察、振り返りシート点検） ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしている。
8	・世界地図を基に、自分の行きたい国とその理由について説明し、ペアでやり取りをする。	本時 思	○	［思・判・表①］（活動の観察、振り返りシート点検） ・やり取りをするなどして、自分の考えを伝え合っている。

指導に生かす評価
英語での言語活動（やり取り）の状況を見取り、努力を要する状況の児童を中心に、教師がペアになったり、活動後に全員一斉に尋ねたりして指導します。

記録に残す評価
ペアを替える等して、全員の児童の言語活動（やり取り）の状況を段階的に記録に残します。

＊例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の児童の姿

◇ **評価規準を児童の姿で示した具体例** ［思・判・表①］
世界地図を基に、相手のことをよく知るという目的や場面、状況に応じて、自分の行きたい国とその理由について説明し、やり取りをするなどして、ペアで自分の考えを伝え合っている。

Point

［やり取り］の見取り方
教師が１時間で児童全員のやり取りを見取ることは現実的ではありません。全員の見取り方として、例えば、単元の途中のある時間に、やり取りが十分できる児童を優先的に見取り、記録します。その見取りを踏まえ、次時では、前時でやり取りが不十分と判断された児童を優先的に見取り、指導します。最終時では、それまでにやり取りが不十分だった児童が改善されていた場合に記録に残すことが考えられます。また、学期に１回程度のパフォーマンステストを実施し、評価の妥当性や信頼性を高めることも大切です。

中学校外国語科

学習評価で大切にしたいこと

目標・指導・評価の一体化
ゴール（身に付けさせたい資質・能力）を生徒と共有しましょう。達成した姿を具体化して目標を設定し、その力を育成するために言語活動を通して指導を行い、評価します。

多面的・多角的な評価
ペーパーテスト（定期考査や単元テスト、言語活動の際に用いるワークシート等）や、パフォーマンステスト（スピーチやインタビュー、ディスカッション等）、活動の観察等により評価を行います。

評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域（聞く、読む、話す［やり取り、発表］、書く）であり、領域別に３観点で評価します。「教科目標」「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す「評価の観点及びその趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価します。外国語科では、基本的に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定します。

「話すこと［やり取り］ウ」　第３学年

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

単元の評価規準例	聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

Point
評価規準は、各領域の「基本的な形」を参考にして作成することができます。左記の［やり取り］では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

３観点を評価する上での留意点

知識・技能
英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかを「知識」として評価します。実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考え等を簡単な語句や文を用いて表現できる力を身に付けているかを「技能」として評価します。

思考・判断・表現
コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じて、話したり書いたり表現したり伝え合ったりしている状況や、話されたり書かれたりする文章等から聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点等を捉えている状況を評価します。

主体的に学習に取り組む態度
左記の［思・判・表］で示すことを「しようとしている」状況を評価します。また、資質・能力を生徒と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を継続的に見取ることも大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価を補完
記録に残す評価場面のない授業においても、指導改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を継続的に確認し、単元や学期末の評価を決定する際の参考にしていくことが大切です。

2 観点のバランスとパフォーマンステストによる評価
単元の中で３観点５領域を評価する場面を設定します。確実に全員分の記録を残すために、学期末等にペーパーテストやパフォーマンステストを実施します。授業中の活動の観察、振り返りやワークシートの記述内容も加味し、評価を決定します。

（例）第3学年　「話すこと［やり取り］」の授業　◇　**単元名**　日本の伝統文化に関する英文を読み、引用しながら自分の考えや気持ちを伝え合おう

◇　**単元の評価規準　「話すこと［やり取り］」**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現在完了について理解し、やり取りの中で適切に使っている。伝統文化について読み、自分の考え、気持ち等を現在完了等を用いて述べ合っている。	①聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	①聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

◇　**指導と評価の計画**（全８時間）

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
4	・現在完了を扱った対話文を読み、英文を引用する等しながら、考えたことや感じたこと等を伝え合う。	主（知）		［主①］（活動の観察） ・適切に英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合おうとしている。
6	・現在完了を扱った教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えたことや感じたことをペアで伝え合う。	思		［思・判・表①］（活動の観察） ・英文を引用しながらやり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合っている。
7	・ピクチャー・カードを使い、現在完了を正しく引用しながら、教師やALTに教科書の内容について説明する。	知	○	［知・技①］（活動の観察、ワークシート点検） ・現在完了を正しく用いて、教科書の内容を説明している。
8	・初見の文章を読み、英文を引用する等しながら、考えたこと、その理由等を伝え合う。 ・ペアで話した内容を踏まえ、自分の考え等を書く。	本時 知 思 主	○	［思・判・表①］（活動の観察） ・初見の英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合っている。 **※確実に全員分の記録を残すために、後日パフォーマンステストを行う。**

指導に生かす評価
生徒の英語での言語活動（やり取り）の状況を見取ることが大切です。

記録に残す評価
単元末の言語活動を観察し、第８時の観察の結果を本課の評価情報として極力記録に残すようにします。

＊例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の生徒の姿

◇　**評価規準を生徒の姿で示した具体例　［思・判・表①］**
伝統文化について書かれた初見の文章を読み、現在完了形を用いた英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、聞き手に伝わるように、自分の考えを伝え合っている。

Point

［やり取り］の見取り方
教師が１時間で全ての生徒のやり取りを見取ることは現実的ではありません。パフォーマンステストで確実に見取り、記録に残すことを目指しますが、単元の最終時でも極力見取りを行い、記録します。ペアを替えたり、TTで実施したり等、見取りの機会を増やし観察を行います。

特定の言語材料の使用の見取りについて
パフォーマンステストや単元の最終時で、[知・技]の評価規準に関して、特定の言語材料の使用が見られなかった場合、それまでの観察結果を加味することが考えられます。条件を揃えた上でやり取りを観察することは難しい場合もあるので、記録を補完できる場面を設けておくと安心です。